



1月28日

「2022年度車両関係施策について」提案を受ける！

1. 車両検修部門(田端・尾久)統合について

(1)実施内容

田端運転所の仕業業務、保全業務および技管業務を尾久車両センターに移管し統合する。

田端運転所の構内誘導業務を尾久車両センターに移管する。

田端運転所の車両検修に関する事務業務を尾久車両センターに移管する。

(2)実施場所

田端運転所・尾久車両センター

2. 派出検査体制の見直しについて

(1)実施内容

上野派出所の解消

(2)実施場所

松戸車両センター

3. 実施時期

2022年4月1日

4. 提案箇所体制について

		現 行				改 正					
		変形等	交代	乗務員		計	変形等	交代	乗務員		計
				日勤	泊				日勤	泊	
田端運転所	管理	5	2			7	3	2			5
	一般	22	2	10		34	6		10		16
尾久車両センター	管理	5	1			6	5	1			6
	一般	24	3			27	32	5			37
松戸車両センター	管理	5	2			7	5	2			7
	一般	24	6			30	24	4			28

※田端運転所・尾久車両センターは「2022年3月ダイヤ改正等について」において示した変更後の体制を現在欄に記載。

※業務の繁閑等に応じて1日当たりの出面数(作業ダイヤ数)を柔軟に設定する。

※上長の指示で管理者が一般社員の業務を行うことや一般社員が管理者の業務を行う場合がある。

～提案時の主な議論～

【車両検修部門(田端・尾久)統合について】

◆車両検修部門(田端・尾久)の統合の目的については2021年9月に提案した内容に変更はない。

◆実施時期を4月1日とした理由は、2021年度上半期は横断的な議論、下期はワーキンググループで活動しており、4月1日実施が最適と判断したためである。

◆検修、保全、技術管理を1つの班にまとめる。その目的はフィールドワークとデスクワークを融合し役割分担にとられないものを目指すものである。また、仕業と構内誘導を融合できないか検討している。

【派出検査体制の見直しについて】

◆派出検査の役割は、車両故障の迅速な対応、本線上の車両品質を確保するためであったが、新系列車両の導入、異常時共有システム、IP無線の整備により情報伝達共有の迅速化を図ってきた。また、上野東京ラインの開業により輸送体系が大きく変化をしている。

◆A・B故障は230件(2015年)から180件(2020年)と減少し、上野派出では1300件(2020年)の出動のうち蛍光灯などのサービス機器によるものが全体の4割強を占める。A故障の出動は0件であるため、派出を解消する。

今後、発生し得る問題点については関係分会とともに議論をつくりだします！